

10 とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会（富山県）

協議会の構成員

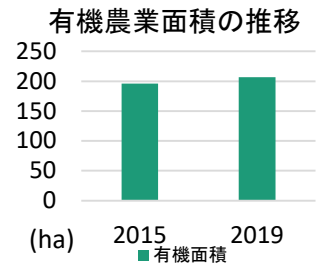
富山県農業協同組合中央会、全農とやま、富山県農林水産部、富山市、氷見市、滑川市、南砺市、入善町、朝日町、（公社）富山県農林水産公社、富山中央青果株式会社、丸果株式会社、MOA自然農法富山県連合会、越中土徳の会、氷見有機の里づくり協議会、富山れんげの会、富山県有機農業研究会、（有）土遊野、ログログファーム

生産概要（2019年度）

- 取組面積
有機農業取組面積：207ha
うち有機JAS取得面積：116ha
- 栽培品目：水稻、大豆、そば、ハトムギ
野菜（サトイモ、キャベツ他）等
- 有機農業者数：75名

成果（2015年→2019年）

- ・有機農業面積の拡大：196ha（2015年）→207ha（2019年）



取組のポイント（取組期間：2016年～）

県段階の「とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会」と、地域段階の有機農業団体（5団体）が連携しながら、有機農産物及びエコ農産物の生産拡大に向けた取組を実施

■有機農業面積等の増加や栽培技術等の習得に向けた取組

- ・BLOF理論による有機栽培技術研修会を開催。
- ・除草技術等の機械メーカー協力のもと農業機械研修会を開催。

■消費者との交流促進の取組

- ・消費者に有機農業やエコ農業のことを知ってもらい、有機農産物等の価値を理解してもらうため、県内のスーパーと連携し、有機栽培ほ場での生き物調査や収穫体験等の体験型イベントを開催。
- ・県民向けの食イベントに特設ブースを設置し、生産者自らが有機農産物の生産活動をPR。

■産地販売力・育成力を強化するための取組

- ・学校給食への有機農産物の導入に向けて先進地導入事例を学ぶための研修会を実施。
- ・有機農産物を取り扱う外食事業者や卸売事業者と意見交換会を実施。



協議会活動を通じて、
富山県の有機農業・エコ農業
を推進します。

問い合わせ先：
富山県農林水産部農業技術課エコ農業推進係
076-444-8292

北陸農政局生産部生産技術環境課
076-232-4893

11 知多の恵み（愛知県武豊町・美浜町・南知多町）

協議会の構成員

株式会社太田農園、黒田農園、杉浦農園、つなぐ農園、ぶっチャ農園、大岩農園
chiiai farm、ささき農園、ベジーン、あおき農園、大矢農園、生協連合会アイチョイス

生産概要（2019年度）

- | | |
|--|--|
| ■ 取組面積
有機農業取組面積：6.3ha
■ 有機農業者数：11名 | ■ 栽培品目：サニーレタス、大根、人参、里芋等
■ 有機農産物の生産量：14トン
■ 構成員の主な取引先：生協連合会アイチョイス |
|--|--|

成果（2018年→2019年）

- ・ 有機農業者数の増加： 7名（2018年）→11名（2019年）
- ・ 有機農業面積の拡大：5.3ha（2018年）→6.3ha（2019年）

取組のポイント（取組期間：2019年～）

■ BLOF理論に基づいた栽培研修会の開催

- ・ 地域課題である田畑転換の実現を目指し、BLOF理論に基づいての研修を通年（年2回）開催し、新規就農者が4名定着・増加。
土壌分析結果から施肥設計を行い、植物生理に基づいた農業理論への理解を深め、新規参入者だけでなく、従来からの 有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

■ 地域資材の有効活用

- ・ 地域の酒蔵の酒粕を生産資材として有効活用することを模索し、循環型農業実現へ向けて試験的な取り組みを行った。



BLOF理論 栽培研修会の様子

一言アピール！

知多半島を有機農業の一大産地に！！
知多の恵みは新たな仲間を常に募集しています！

問い合わせ先
知多の恵みG事務局 杉浦
0569-82-0401

〔東海農政局生産部生産技術環境課〕
052-746-1313



12 ニューファーマーズBLOF生産者協議会

(三重県四日市市・鈴鹿市・三重郡菰野町・三重郡川越町)

協議会の構成員

BLOF理論実践農家21名、四日市市、三重県など

生産概要 (2019年度)

■取組面積

有機農業取組面積：1.31ha

■栽培品目：トマト、ニンジン、茶等

■構成員の主な取引先：スーパー、契約販売、直売所等※
※構成員それぞれによる

成果 (2018年→2019年)

- ・2019年に新たに1名が有機農業を開始。
- ・有機農業の取組面積の拡大：0.85ha（2018年）→1.31ha（2019年）

取組のポイント（取組期間：2019年～）

■有機農産物の安定生産に向けた取組

・新規参入者等については、気候変動・病害虫の発生による減収など、生産面で不安定な部分があった。そこで、協議会の活動として、有機農業の専門家を招聘し、品目を横断した多収技術の勉強会や土壌分析会、施肥設計検討会を**年27回**開催し、有機農業技術の定着を目指す取組を行った。

また、緑肥・土壌分析の結果を活用した栽培マニュアルを作成し、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

■流通・販売の拡大に向けた取組

・有機農産物の販売拡大に向け、慣行農産物との差別化が課題となっていた。そこで、販売に関する勉強会を開催し、オーガニックプロデューサーによる講演やバイヤーとの交渉演習、個別相談会などの取組を行った。また先進地視察による実需者ニーズの把握を通じ、販売力の向上を図った。



販売方法の勉強会の様子



一言アピール！

味・品質にこだわってつくった美味しい農産物を生産しています。地元の直売所で販売しておりますので、ぜひご賞味ください！

問い合わせ先
ニューファーマーズBLOF生産者
協議会 059-352-0638

東海農政局生産部生産技術環境課
052-746-1313

13 京都オーガニックアクション協議会（京都府および周辺）

協議会の構成員

京都市周辺の生産者、流通業者、飲食店、学術関係者ら
（369商店、坂ノ途中、アスカ有機農園、ワンドロップ、へんこ、
かみむら農園、中川自然農園、音吹畑、梅本自然農園ほか）

生産概要（R1年度）

■取組面積

有機農業取組面積：60.7 ha（うち有機JAS取得面積：11.8 ha）

■有機農業者数：52名

■栽培品目：万願寺とうがらし、米、ネギ、黒豆など

■生産量：108 ton

Farmoを活用した受発注データ共有

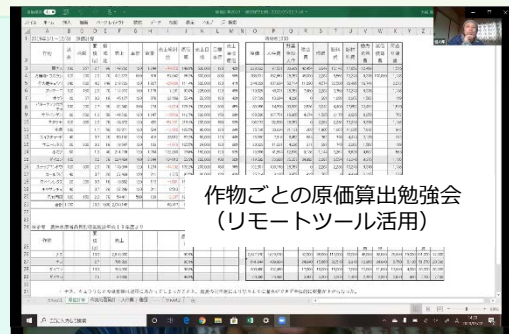


成果（R1年度末）

- ・本事業取組生産者数： H30年度末 **34** 名 → R1年度末 **52** 名（53%増）
- ・有機農業面積の拡大： H30年度末 **55.7** ha → R1年度末 **60.7** ha（9%増）
- ・有機農産物の販売額： H30年度末 **4479** 万円 → R1年度末 **5079** 万円（13%増）

取組のポイント（取組期間：2018年～）

- ・共同物流便運行と農産物生産販売計画・取引データの共有
- ・生産者／実需者の意見交換会および相互訪問
- ・地域の生産者・実需者を巻き込んだ作付検討会の開催
- ・生産者対象の生産技術・経営技術に関わる研修会実施
- ・少量多品目農業者の生産コスト～品目ごとの適正価格算出の支援



作物ごとの原価算出勉強会
（リモートツール活用）

京都周辺の比較的小規模の生産者・実需者らが集まり、
生産・販売・物流に関する情報を共有。
周年供給体制構築に向けた「作付検討会」を **2** 回開催。

意見交換会、相互見学会、意向調査などを実施（**9**回）
地域内外における新たな取引につなげている。

生産技術や経営スキル向上を図る勉強会等を **5** 回開催



地域内流通を支えるコミュニティづくり

持続可能な社会を目指す生産者、流通業者らが集まって
知恵を出し合いながら、新しい流通の仕組みづくりに
取り組んでいます！ 全国各地の皆さんも連携しませんか？

問い合わせ先：
近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

14 兵庫オーガニックアクション協議会（兵庫県）

協議会の構成員

兵庫県及びその周辺地域の生産者、流通業者、就農希望者 合計34事業者（法人・個人）
（丹波篠山市、丹波市、多可郡、朝来市、三田市、神戸市、洲本市、芦屋市、西宮市、佐用郡、姫路市）

生産概要（2019年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：43.92ha
うち有機JAS取得面積：36.46ha
- 有機農業者数：24名
- 栽培品目：水稻、黒大豆、玉ねぎ、人参 他
- 有機農産物の生産量：387トン
- 構成員の主な取引先：20箇所
（生協、スーパー、宅配事業者、レストラン）

成果（2019年→2022年）

- ・有機農業者数の増加：24名（2019年）→40名（2022年見込み）
- ・有機農業面積の拡大：43.92ha（2019年）→62.18ha（2022年見込み）
- ・有機農産物の販売額：14,456万円（2019年）→20,653万円（2022年見込み）



取組のポイント（取組期間：2019年～）

■圃場の有機への転換について

・微生物資材を活用した堆肥及び、微生物活性資材などを使用する事で、土壌の活性化をはかることができることがわかった。

■栽培技術の向上について

・海外の有機栽培技術や経営技術について、日本でも有効な事が多く今期の栽培に活かしている。また、勉強会（8回）を通じて、農業者間のネットワークが増え、情報交換や栽培課題の相談などができるようになった。

■作付け情報の共有

・コロナの影響もあり、より良い食への期待の高まりを感じられ有機農産物の引き合いが増えている中、作付け情報の取りまとめを行った事で、生産者及び農産物の紹介が可能になった。



HYOGO
ORGANIC
ACTION

ボーダレスでグローバルな連携を目指す！

農法、行政区画を超えた連携により、より良い生産技術・経営技術・バリューチェーンの構築を目指してます！

問い合わせ先
兵庫オーガニックアクション協議会
hyogooa@gmail.com

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

15 神戸オーガニック・エコ農業推進協議会（兵庫県神戸市）

協議会の構成員

赤城節子、池上義貴、小笠原徹、金谷智之、高本知宜、小池潤、小寺正幸、佐伯昌昭、田坂久美子、田中勇磨、田村義文、戸田光史、坪井良尚、東純平、古村剛、前田陽一、馬杉秀昭、村上彰、森田守、吉田昭（50音順） <構成員の所属等> 朝来市、生活協同組合コープ自然派兵庫、株式会社コープ有機、一般社団法人オーガニック認証センター

生産概要（2020年5月）

■取組面積

有機農業取組面積：24ha

うち有機JAS取得面積：9ha

■有機農業者数：7名

■栽培品目：米、大豆、人参、ズッキーニ、カボチャ、玉ねぎ、かぶ、ほうれん草、小松菜、ピーマン、水菜、トマト、春菊、レタス等

■構成員の主な取引先：3箇所
（生協、直売所、レストラン）

成果（2019年→2020年）

- ・有機農業者数の増加：6名（2019年）→7名（2020年）
- ・有機農業面積の拡大：23ha（2019年）→41ha（2020年）

取組のポイント（取組期間：2018年～）

■有機農業への参入者の増加に向けた取組

・新規参入者の課題であった有機農業の栽培技術について、BLOF理論の講習会を年に4回実施（※）することで新規参入者が1名定着・増加。講習会において生産者からの様々な実践的課題に対して講師から丁寧な説明を受け新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

※ 小祝政明氏の提唱している、科学的・理論的に有機農業を進める再現可能な農法のBLOF理論に関する栽培技術講習会を年4回開催。

- ① 太陽熱養生処理を用いた団粒形成と各地の実践事例の紹介
- ② 作物生理に基づいたアミノ酸の供給
- ③ 微生物と水溶性炭水化物の供給
- ④ 土壌分析に基づいた施肥設計

問い合わせ先
神戸オーガニック・エコ農業推進協議会
事務局 078-939-7650

〔近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722〕

16 神戸有機農業者CSA推進協議会（兵庫県神戸市）

協議会の構成員

株式会社ナチュラリズム代表	大皿一寿	生産者	あぐりしあ代表	加藤正樹	生産者
株式会社ナチュラリズム	大皿純子	生産者	神戸市経済観光局農政部農水産課 課長	山田隆大	市町村
谷下農園・代表	谷下恵次	生産者	神戸農業改良普及センター 経営課長	八田 晃一	都道府県
fresco fresco 代表	丸山倫寛	生産者			
なちゅらすふあーむ代表	石野武	生産者			
桶谷農園代表	桶谷光弘	生産者			

生産概要（2020年4月）

- 取組面積
有機農業取組面積：4.85ha
うち有機JAS取得面積：1.85ha
- 有機農業者数：7名
- CSA会員数個人31名、企業1社
- CSA販売実績：2,500,000円
- 新しい品目：ビール麦 500kg

成果（2019年→2022年）

- ・ 有機農業の新規参入者の増加：1名（2019年）→4名（2022年）※見込み
- ・ 有機農業面積の拡大：4.8ha（2019年）→6.8ha（2022年）※見込み

取組のポイント（取組期間：2019年～）

■ 有機農業への参入者の増加に向けた取組

- ・ 神戸市内の耕作放棄地の解消と農業者減少を有機農業で解決するビジョンを掲げ、技術向上セミナーを年に2回開催すると共に大麦の栽培を新たに実験し有機農業の経営基盤の向上を図った。

■ 流通・販売の拡大に向けた取組

- ・ 実需者を交え、有機農業の販売方法（CSA）の拡大を目指し、CSAの事例セミナーの開催や、一定数の参加を見込める企業内での野菜流通の実験を行い販売数の確保に至った。



一言アピール！

CSAは今後の有機農業拡大のキーワードだと思います。興味がある方はお問合せください

問い合わせ先
神戸有機農業者CSA推進協議会
090-8934-6611

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

17 丹波市有機の里づくり推進協議会（兵庫県丹波市）

協議会の構成員

丹波市有機農業研究会、丹波ひかみ農業協同組合、丹波市役所
【アドバイザー】日本有機農業普及協会 代表理事 小祝 政明

生産概要（2020年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：154ha
うち有機JAS取得面積：55ha
- 有機農業者数：148名
- 栽培品目：水稻、黒豆、小豆等
- 有機農産物の生産量：500トン
- 構成員の主な取引先：20箇所以上
（例：大手米穀商社 生協 ネット通販）

成果（2019年→2020年）

- ・有機農業者数の増加：67戸 → 69戸
- ・有機農業面積の拡大：146ha → 154ha
- ・有機農産物の販売額：1億4700万円 → 1億9100万円



取組のポイント（取組期間：2019年～）

- 付加価値をつけた有機農産物の普及
有機農産物の普及において、「農薬を使っていないから見た目が悪くてもOK」といった概念を地域内で広める為、高品質でかつ高栄養価の有機野菜づくりにつとめて、流通においてお客さまから指名いただけるような栽培を目指す。**定期的に行う栽培勉強会**において**モデル圃場を設け、実地研修・共同勉強会**を開催する事で、産地としての農作物の品質レベルの向上を図っている。

- 流通・販売の拡大に向けた取組
高品質で栄養価の高い農作物を求める実需者のニーズを把握するため、8月におこなわれた**オーガニックライフスタイルEXPO等に出展し、新規顧客獲得**につなげた。



一言アピール！

年々、栽培技術は向上しています。更に、地域に広がるよう、自主勉強会も実施しています。

問い合わせ先
丹波市有機の里づくり推進協議会
丹波市産業経済部農業振興課
0795-88-5028

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722